



形が刻まれていた。16:45国道399号に出て下降終了とする。

【タイム】 下降開始(16:15)→下降終了(16:45)

赤津  
ウド沢(仮称)左俣

1983年6月4日

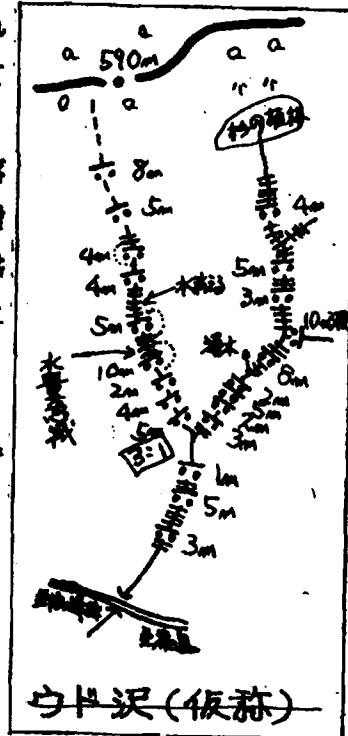
15:30遊行開始。5m滝は真中の水の流れていない所を直登し、5分で二俣まで行きつく。

左俣に入るとすぐ5mの滝が出てくる。直登する。その先にも滝が続く。そして10m滝。これは左岸を捲いて上に出る。ここまできたら水量は急減した。そしてその先の5m滝の左岸を捲いて上に出た所で、水の流れは消えてしまった。その中を沢は頼りないトイ状となっており、なおも続いている。

岩の上に葉を小さく巻いたような形のもの多数落ちていた。オトシブミだ。「落し文」に由来する優雅な名前をもつ小さな甲虫が、せっせと葉を巻いて子供のためにエサと居室を準備したものである。人の目にふれないこんな山奥にも子孫繁栄のための営みがひっそりと続けられている。

沢は所々藪がかかるようになった。もうおしまいである。16:05沢から離れてやぶごぎに入る。10分程で尾根に出た。

【タイム】 ウド沢出合(15:30)→二俣(15:35)→遊行終了(16:15)



赤津沢

ウド沢(仮称)右俣(下降)

1983年6月4日

14:15下降開始。実はこの時点では小スリバチ沢に入ったつもりであった。尾根